

## 整形外科学：骨折・脱臼

39-095 外傷性骨折の早期から発症する合併症はどれか。

1. 阻血性骨壊死
2. 骨化性筋炎
3. フォルクマン拘縮
4. 偽関節
5. 変形性関節症

40-076 老人の転倒による骨折で少ないのはどれか。

1. 上腕骨近位端骨折
2. コーレス骨折
3. 椎体圧迫骨折
4. 骨盤骨折
5. 大腿骨頸部骨折

40-078 骨折と受傷機転との組合せで頻度が低いのはどれか。

1. 上腕骨顆上骨折——肘伸展位の強制
2. Monteggia 骨折——前腕回外位の強制
3. Smith 骨折——手関節掌屈位の強制
4. Bennet 骨折——母指 CM 関節外転位の強制
5. 槌指——DIP 関節伸展位の強制

41-079 骨折の治癒機転で誤っているのはどれか。

1. 炎症反応が起こる。
2. 血腫を形成する。
3. 破骨細胞が増殖する。
4. 仮骨が形成される。
5. 骨改変を生じる。

41-080 骨折後に発生する合併症で誤っているのはどれか。

1. 静脈血栓症
2. 阻血性拘縮（フォルクマン拘縮）
3. 骨化性筋炎
4. 無腐性骨壊死
5. デュピイトラン拘縮

42-075 骨折治癒に影響する因子として適切でないのはどれか。

1. 低蛋白血症
2. 高尿酸血症
3. 転位の程度
4. 局所の感染
5. 血管損傷の合併

42-077 骨壊死を合併しやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 鎖骨骨折
2. 上腕骨外科頸骨折
3. 大腿骨頸部内側骨折
4. 膝蓋骨骨折
5. 距骨頸部骨折

42-078 骨折、脱臼に合併しやすい障害の組合せで誤っているのはどれか。

1. 肩関節前方脱臼——腋窩神経麻痺
2. 腓骨頭骨折——深腓骨神経麻痺
3. 上腕骨顆上骨折——正中神経麻痺
4. 股関節後方脱臼——坐骨神経麻痺
5. 大腿骨骨幹部骨折——大腿神経麻痺

43-049 特発性骨壊死を起こしやすい部位はどれか。2つ選べ。

1. 橈骨頭
2. 手の舟状骨
3. 大腿骨頭
4. 大腿骨内側顆
5. 腓骨頭

43-083 骨折、脱臼と合併症の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 肩関節前方脱臼——筋皮神経麻痺
2. 上腕骨顆上骨折——正中神経麻痺
3. 股関節後方脱臼——坐骨神経麻痺
4. 大腿骨骨折——大腿神経麻痺
5. 脛骨骨折——脛骨神経麻痺

43-084 脊椎圧迫骨折の好発部位はどれか。2つ選べ。

1. 第5頸椎
2. 第3胸椎
3. 第12胸椎
4. 第1腰椎
5. 第5腰椎

44-077 骨折について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 回旋変形は自然矯正されやすい。
2. 小児では Colles 骨折の頻度が高い。
3. 上腕骨近位端骨折は高齢者に多い。
4. 癌の骨転移では疲労骨折が生じやすい。
5. 脂肪塞栓は大腿骨骨折後に起こりやすい。

45-A-086 骨折と合併しやすい神経麻痺との組合せで正しいのはどれか。

1. 上腕骨骨幹部骨折—腋窩神経麻痺
2. 上腕骨顆上骨折—正中神経麻痺
3. 橈骨遠位端骨折—橈骨神経麻痺
4. 大腿骨骨幹部骨折—大腿神経麻痺
5. 脛骨骨幹部骨折—脛骨神経麻痺

45-P-086 骨壊死を起こしやすいのはどれか。

1. 上腕骨外科頸骨折
2. 肘頭骨折
3. 中手骨骨折
4. 大腿骨頸部内側骨折
5. 踵骨骨折

46-A-083 前方脱臼よりも後方脱臼の頻度が高いのはどれか。2つ選べ。

1. 顎関節
2. 環軸椎関節
3. 肩関節
4. 肘関節
5. 股関節

47-A-052 骨折部の血流が障害されやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 脛骨粗面
2. 大腿骨頭
3. 坐骨結節
4. 手の舟状骨
5. 上腕骨大結節

47-A-087 成人と比べ、小児の骨折で多いのはどれか。2つ選べ。

1. 偽関節
2. 過成長
3. 若木骨折
4. 関節拘縮
5. 角状変形の遺残

48-P-087 小児に多い骨折はどれか。

1. 上腕骨近位端骨折
2. 上腕骨顆上骨折
3. 腰椎圧迫骨折
4. 大腿骨頸部骨折
5. 脛骨骨幹部骨折

49-P-087 骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. Barton 骨折———尺骨遠位端
2. Bennett 骨折———第2中手骨基部
3. Colles 骨折———上腕骨骨幹部
4. Monteggia 骨折———橈骨骨幹部
5. Smith 骨折———橈骨遠位端

50-A-090 骨折後に偽関節を生じやすいのはどれか。

1. 手の舟状骨
2. 鎖骨遠位部
3. 橈骨遠位部
4. 中手骨骨幹部
5. 上腕骨近位部

50-P-090 骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. Monteggia 骨折———上腕骨
2. Cotton 骨折———橈骨
3. Malgaigne 骨折———骨盤
4. Jefferson 骨折———大腿骨
5. Bennett 骨折———脛骨

## 整形外科学：変形性関節症

39-082 変形性膝関節症患者への生活指導で適切でないのはどれか。

1. 水泳
2. ジョギング
3. 体重のコントロール
4. 重量物運搬の回避
5. 椅子使用などの洋式生活

39-84 正しいのはどれか。

1. 変形性肘関節症では前腕の回内制限が著しい。
2. 変形性膝関節症は男性に多い。
3. 変形性股関節症の多くは一次性である。
4. 変形性頸椎症は第3, 4頸椎に生じやすい。
5. 腰椎変形性後弯症は女性の農業従事者に多い。

40-089 変形性股関節症で誤っているのはどれか。

1. 日本では二次性が多い。
2. 血沈値が上昇する。
3. 歩き始めに疼痛が出現する。
4. 関節裂隙が狭小化する。
5. 股関節外転が制限される。

42-067 変形性膝関節症で正しいのはどれか。

2つ選べ。

1. 中年期以降の肥満女性に好発する。
2. 頻度は変形性股関節症より低い。
3. 起立動作時よりも歩行時に痛みが強い。
4. 進行すると膝外反変形を生じやすい。
5. エックス線写真で関節裂隙の狭小化がみられる。

43-081 変形性膝関節症で誤っているのはどれか。

1. 中高年の女性に多い。
2. 日本人では内反型が多い。
3. 動き始めの疼痛が特徴である。
4. 明らかな原因のない一次性が多い。
5. 進行すると脛骨が大腿に対して内旋変形する。

46-A-086 変形性膝関節症で正しいのはどれか。2

つ選べ。

1. 二次性が多い。
2. 女性よりも男性に好発する。
3. 外反変形を生じやすい。
4. 運動開始時に疼痛がある。
5. 大腿四頭筋の萎縮を認める。

46-P-075 変形性関節症の病理学的変化はどれか。

1. 関節軟骨の破壊
2. アミロイドの沈着
3. 尿酸塩結晶の沈着
4. ピロリン酸カルシウムの沈着
5. Langhans (ラングハンス) 巨細胞の出現

48-A-088 変形性膝関節症で正しいのはどれか。

1. 外側型が多い。
2. 歩き始めは痛くない。
3. 女性よりも男性に多い。
4. 膝周囲筋の筋力強化は症状を改善させる。
5. 内側型には内側が高い楔状足底板が用いられる。

50-A-089 変形性関節症について正しいのはどれか。

1. 若年者に好発する。
2. 滑膜炎から軟骨の変性に至る。
3. 股関節では二次性関節症が多い。
4. 膝関節では女性に比べ男性の有病率が高い。
5. 発症要因として遺伝的素因は認められない。

### 整形外科学：骨粗鬆症

41-084 一次性骨粗鬆症で正しいのはどれか。

- ア. 骨量の減少
  - イ. 骨梁の減少
  - ウ. 血清カルシウム値の上昇
  - エ. 血清リン値の低下
  - オ. 類骨の増加
1. ア、イ 2. ア、オ 3. イ、ウ  
4. ウ、エ 5. エ、オ

42-074 原発性骨粗鬆症で正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. 発症率は男性の方が高い。
- 2. 類骨の割合が増加する。
- 3. 海綿骨の骨梁が減少する。
- 4. 血清カルシウム値は低下する。
- 5. 血清アルカリフォスファターゼ値は正常である。

43-080 骨粗鬆症の成因で誤っているのはどれか。

- 1. 閉経
- 2. 慢性腎不全
- 3. 男性ホルモンの投与
- 4. 過度のアルコール摂取
- 5. 副腎皮質ホルモンの投与

46-A-087 原発性骨粗鬆症について正しいのはどれか。

- 2つ選べ。
- 1. 男性に多い。
  - 2. 海綿骨の減少を伴う。
  - 3. 喫煙は危険因子である。
  - 4. 低カルシウム血症を伴う。
  - 5. 骨折好発部位は尺骨である。

### 整形外科学：骨端症

41-089 下肢の骨端症と好発部位との組合せで正しいのはどれか。

- ア. 第1ケーラー病—踵骨
  - イ. 第2ケーラー病—舟状骨
  - ウ. セバー病—中足骨
  - エ. オスグッド・シュラッター病—脛骨結節
  - オ. ペルテス病—大腿骨骨頭
1. ア、イ 2. ア、オ 3. イ、ウ  
4. ウ、エ 5. エ、オ

42-088 小児期の疾患でないのはどれか。

- 1. キーンベック病
- 2. ショイエルマン病
- 3. セバー病
- 4. ペルテス病
- 5. 第1ケーラー病

44-075 女児に多い骨端症の罹患部位はどれか。

- 1. 大腿骨骨頭
- 2. 脛骨粗面
- 3. 踵骨
- 4. 足の舟状骨
- 5. 第2中足骨

43-082 幼児期に好発する骨端症はどれか。2つ選べ。

- 1. Perthes(ペルテス)病
- 2. Osgood(オスグッド)病
- 3. Kienböck(キーンベック)病
- 4. 第1Köhler(ケーラー)病
- 5. Schuermann(ショイエルマン)病

45-P-087 Osgood-Schlatter 病で正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. 運動時痛がある。
- 2. 女児の罹患率が高い。
- 3. 大腿骨顆部に圧痛がある。
- 4. 大腿四頭筋筋膜に部分断裂を生じる。
- 5. 骨端線の閉鎖以降に症状は消失しやすい。

48-P-077 骨端症と発生部位についての組合せで正しいのはどれか。

- 1. Osgood-Schlatter 病——大腿骨頭
- 2. 第1Köhler 病——踵骨
- 3. Kienbock 病——月状骨
- 4. Perthes 病——脛骨粗面
- 5. Sever 病——足舟状骨

## 整形外科学：末梢神経損傷

40-072 手根管症候群の症状で正しいのはどれか。

1. 母指球筋の萎縮
2. 長母指屈筋の麻痺
3. 手背尺側の感覚鈍麻
4. 鷲手
5. レイノー徴候

41-082 誤っている組合せはどれか。

1. 円回内筋症候群——橈骨神経
2. 手根管症候群——正中神経
3. 足根管症候群——脛骨神経
4. 梨状筋症候群——坐骨神経
5. ギヨン管症候群——尺骨神経

41-083 末梢神経損傷で予後が最も良いのはどれか。

1. ニューロトメーシス
2. アクソノトメーシス
3. ニューロプラキシア
4. ワーラー変性
5. 引き抜き損傷

42-079 末梢神経損傷で誤っているのはどれか。

1. 筋萎縮
2. 異常感覚
3. 発汗異常
4. 腱反射亢進
5. 筋線維束攣縮

43-085 絞扼性神経障害と症状の組合せで誤っているのはどれか。

1. 肘部管症候群——母指内転障害
2. Guyon(ギヨン)管症候群——手背尺側のしびれ
3. 手根管症候群——母指対立障害
4. 梨状筋症候群——大腿部後面の痛み
5. 足根管症候群——足底のしびれ

44-049 有髄末梢神経切断後の変性について正しいのはどれか。

1. 切断部から末梢側の軸索の興奮性は切断 4 週間まで保たれる。
2. 切断部から末梢側の軸索の変性は最末端から中枢側へ進行する。
3. Schwann 細胞の変性は切断部位に局限して生じる。
4. 切断部から中枢側への逆行性変性が出現する。
5. 変性後に再生する軸索に Schwann 細胞は付着しない。

44-081 肘部管症候群で筋力低下をきたすのはどれか。

1. 短母指外転筋
2. 長母指伸筋
3. 長母指屈筋
4. 母指対立筋
5. 母指内転筋

44-089 末梢神経とその損傷による症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 長胸神経——翼状肩甲
2. 後骨間神経——手指 MP 関節伸展の筋力低下
3. 大腿神経——股関節伸展の筋力低下
4. 総腓骨神経——下垂足
5. 閉鎖神経——股関節内転筋筋力低下

45-P-92 胸郭出口症候群の成因に関係するのはどれか。2 つ選べ。

1. 胸骨
2. 鎖骨
3. 上腕骨
4. 第 1 肋骨
5. 第 1 胸椎

46-A-068 末梢神経損傷で予後が最も良いのはどれか。

1. Waller (ワーラー) 変性
2. 放射線ニューロパチー
3. neurotmesis (ニューロトメーシス)
4. axonotmesis (アクソノトメーシス)
5. neurapraxia (ニューラプラキシア)

46-A-090 肘部管症候群の症状で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 猿手変形
2. 鉤爪手変形
3. ボタン穴変形
4. Tinel 徴候
5. 前腕近位尺側の感覚障害

46-P-089 分娩麻痺で正しいのはどれか。

1. 低出生体重児に多い。
2. 下位型は頸部が伸展されて起こる。
3. 頭位分娩による上位型の予後は良い。
4. 頭位分娩では上位型よりも下位型が多い。
5. 両側例は骨盤位分娩よりも頭位分娩に多い。

47-A-086 尺骨神経麻痺で見られるのはどれか。

1. Kernig 徴候
2. Lasègue 徴候
3. Froment 徴候
4. Lhermitte 徴候
5. McMurray 徴候

48-P-089 絞扼性神経障害と障害される神経の組合せで正しいのはどれか。

1. 肘部管症候群——橈骨神経
2. 円回内筋症候群——尺骨神経
3. 手根管症候群——正中神経
4. 梨状筋症候群——外側大腿皮神経
5. 足根管症候群——総腓骨神経

49-A-091 絞扼性神経障害と症状・検査の組合せで正しいのはどれか。

1. 斜角筋症候群——Wright テスト
2. 肘部管症候群——Spurling テスト
3. 前骨間神経麻痺——Froment 徴候
4. 後骨間神経麻痺——Finkelstein テスト
5. 手根管症候群——Phalen テスト

49-P-088 絞扼性神経障害と神経の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 梨状筋症候群 ——坐骨神経
2. 肘部管症候群——正中神経
3. Guyon 管症候群——尺骨神経
4. 円回内筋症候群——尺骨神経
5. Hunter 管症候群——大腿神経

## 整形外科学：膝関節疾患

42-076 膝関節のロッキング現象の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 離断性骨軟骨炎
2. 半月板損傷
3. 前十字靭帯損傷
4. 膝蓋大腿関節障害
5. 内側側副靭帯損傷

43-078 膝くずれ(giving-way)の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 腸脛靭帯炎
2. 反復性膝蓋骨脱臼
3. 前十字靭帯損傷
4. 内側側副靭帯損傷
5. 有痛性分裂膝蓋骨

45-P-085 膝関節疾患の症状とその説明との組合せで誤っているのはどれか。

1. キャッチング—運動時に膝に引っかかりを感じる。
2. 膝くずれ—荷重時に膝がガクッと折れそうになる。
3. ロッキング—膝が一定の角度で屈伸不能になる。
4. 伸展不全—自動的な完全伸展が不能となる。
5. 弾発現象—膝の中でもものが動く感じがする。

47-P-085 膝関節前十字靭帯損傷の検査はどれか。2つ選べ。

1. Apley テスト
2. Lachman テスト
3. 内反ストレステスト
4. 前方引き出しテスト
5. 後方引き出しテスト

## 整形外科学：椎間板ヘルニア

41-081 第4・5腰椎の椎間板ヘルニアでみられないのはどれか。

1. ラセーグ徴候陽性
2. 疼痛性側弯
3. 膝蓋腱反射減弱
4. 下腿外側の触覚鈍麻
5. 長母指伸筋の筋力低下

46-P-086 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 椎間板の前側方突出が多い。
2. 第3・4腰椎間で最も多く発症する。
3. 第3・4腰椎間で生じると膝蓋腱反射が亢進する。
4. 第4・5腰椎間で生じると下腿三頭筋の筋力低下を認める。
5. 第5腰椎・第1仙椎間で生じるとアキレス腱反射が低下する。

47-P-087 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。
2. 好発年齢は50歳代である。
3. 第4・5腰椎間で生じると前脛骨筋の筋力が低下する。
4. 第5腰椎・第1仙椎間で生じると足背の感覚障害が起こる。
5. 第3・4腰椎間で生じると大腿神経伸展テストが陽性となる。

48-A-085 腰部MRIを別に示す。この画像で認められるのはどれか。

No. 5 (O 問題85)



1. 骨粗鬆症
2. 腰椎圧迫骨折
3. 腰椎すべり症
4. 後縦靭帯骨化症
5. 椎間板ヘルニア

50-P-091 頸椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。
2. 60～70代に好発する。
3. 下肢症状より上肢症状で始まることが多い。
4. C6、7間の外側型ヘルニアでは腕橈骨筋反射が亢進する。
5. 座位で両肩関節を過外転すると橈骨動脈の拍動が減弱する。

## 整形外科学：脊椎疾患

39-097 腰部脊柱管狭窄症の症状として特徴的なのはどれか。

1. 間欠性跛行
2. 腱反射亢進
3. 凹足
4. 足底潰瘍
5. 起立性低血圧

44-080 CT を示す。この症例で見られるのはどれか。2つ選べ。

1. 筋線維束攣縮
2. 上腕三頭筋反射の低下
3. Hoffmann 反射陽性
4. Babinski 反射陽性
5. 舌の萎縮



(水平断)



(矢状断)

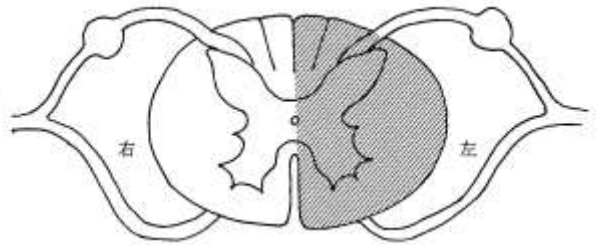
45-A-088 強直性脊椎炎で正しいのはどれか。

1. 20 歳代の女性に好発する。
2. 急性発作で発病する。
3. 血沈は正常である。
4. 虹彩毛様体炎を伴う。
5. 四肢の関節は障害されない。

46-P-088 第5胸髄レベルの脊髓横断面の模式図に損傷部位を斜線で示す。

右下肢にみられる症状はどれか。

1. 運動麻痺
2. 痛覚鈍麻
3. 位置覚異常
4. 振動覚低下



5. 腱反射亢進

48-P-088 腰部脊柱管狭窄症で見られるのはどれか。

1. Trendelenburg 徴候
2. 下肢の腱反射亢進
3. 腰椎前弯増強
4. 間欠性跛行
5. 槌趾変形



## 整形外科学：脊髄損傷

39-064 脊髄損傷患者で異所性化骨(異常骨形成)の好発部位はどれか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 手関節
4. 股関節
5. 足関節

39-090 高齢者の頸髄損傷で正しいのはどれか。

1. 半側横断型不全損傷が多い。
2. スポーツ傷害で起こりやすい。
3. 頸椎の骨傷を伴わないことが多い。
4. 上肢に比べ下肢の障害が重い。
5. 頸部過屈曲を受傷機転とする。

40-066 A S I A の評価法で誤っているのはどれか。

1. 感覚障害は5段階で規定されている。
2. 肛門括約筋収縮の有無が規定されている。
3. C7 レベルの感覚は中指で検査する。
4. L5 レベルの key muscle は足指伸展筋群である。
5. 機能障害スケールはフランケル分類を改変したものである。

40-073 中心性頸髄損傷の特徴で正しいのはどれか。

1. 小児に多い。
2. 頸部過屈曲によって生じる。
3. 頸椎の脱臼骨折を伴う。
4. 運動障害は上肢よりも下肢の方が著しい。
5. 会陰部の感覚は残存する。

44-079 中心性頸髄損傷で正しいのはどれか。

2つ選べ。

1. 高齢者に多い。
2. 骨傷を伴うことが多い。
3. 灰白質の損傷は少ない。
4. 上肢よりも下肢の症状が強い。
5. 後縦靭帯骨化症があると生じやすい。

45-P-089 中心性頸髄損傷の特徴はどれか。

1. 20歳代に多い。
2. 大きな外力によって生じる。
3. 頸椎の脱臼骨折を伴う。
4. 知覚麻痺は重度である。
5. 下肢よりも上肢の運動障害が著しい。

46-A-082 頸髄完全損傷の機能残存レベルと課題との組合せで誤っているのはどれか。

1. C4———電動車椅子の操作
2. C5———ベッドへの横移乗
3. C6———長便座への移乗
4. C7———自動車への車椅子の積み込み
5. C8———高床浴槽への出入り

47-P-063 脊髄後索の損傷によって生じるのはどれか。2つ選べ。

1. 部位覚障害
2. 位置覚障害
3. 温痛覚解離
4. 振動覚障害
5. Babinski 徴候

49-P-083 頸髄損傷患者でみられる脊髄ショック期の徴候はどれか。

1. 温痛覚解離
2. 腱反射亢進
3. 痙性四肢麻痺
4. 自律神経過反射
5. 肛門括約筋反射消失

50-A-083 脊髄損傷の感覚障害について正しいのはどれか。

1. 馬尾神経症候群ではみられない。
2. 中心性頸髄損傷では上肢より下肢に強い。
3. 脊髄円錐症候群では肛門周囲が障害される。
4. 前脊髄動脈症候群では位置覚が障害される。
5. Brown-Séquard 症候群では病巣の反対側の位置覚が障害される。

## 整形外科学：関節リウマチ

40-081 関節リウマチにみられないのはどれか。

1. 関節滑膜の炎症
2. 関節軟骨の破壊
3. 関節周囲の腱断裂
4. 関節内の結晶析出
5. 関節の亜脱臼

41-077 関節リウマチの診断基準(アメリカリウマチ協会 1987年改訂)に含まれていない項目はどれか。

1. 朝のこわばり
2. 対称性の関節炎
3. リウマトイド結節
4. 血清リウマトイド因子
5. CRP

42-073 関節リウマチで障害されにくいのはどれか。

1. 環軸関節
2. 肘関節
3. 遠位指節間関節
4. 膝関節
5. 手関節

44-071 関節リウマチの診断基準(アメリカリウマチ協会 1987年改訂)に含まれない項目はどれか。

1. 朝のこわばり
2. 対称性の関節炎
3. リウマトイド結節
4. 血清リウマトイド因子
5. CRP

45-P-088 関節リウマチでみられないのはどれか。

1. 関節の亜脱臼
2. 腱鞘滑膜の炎症
3. 関節軟骨の破壊
4. 関節内の結晶析出
5. 関節周囲の腱断裂

47-P-086 関節リウマチについて正しいのはどれか。

1. 股関節などの大関節に初発する。
2. 罹患関節の症状は非対称性に現れる。
3. 約半数にリウマトイド結節が認められる。
4. 血清アルカリフォスファターゼが高値となる。
5. 悪性関節リウマチでは血管炎による臓器障害が起りやすい。

## 整形外科学：切断

39-065 下肢切断について正しいのはどれか。

1. 大腿標準切断では股内転拘縮を生じやすい。
2. 下腿標準切断では外反膝を生じやすい。
3. サイム切断では断端末に創を生じやすい。
4. ショパール関節離断では足外反拘縮を生じやすい。
5. リスフラン切断では足内反変形を生じやすい。

42-063 切断後の幻肢で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. いったん出現した幻肢は消失しない。
2. 先天性四肢欠損症でも認められる。
3. 四肢末梢部ほど強く現れる。
4. 上肢切断よりも下肢切断で強く現れる。
5. 術直後義肢装着法には予防効果がある。

44-064 エックス線写真 (No1) を示す。この病態の原因で最も多いのはどれか。

1. 外傷
2. 腫瘍
3. 糖尿病
4. 閉塞性血栓血管炎 (Buerger病)
5. 閉塞性動脈硬化症



46-P-085 小児の切断で正しいのはどれか。

1. 5歳児の切断では幻肢が生じる。
2. 先天性切断では一側下肢切断が最も多い。
3. 後天性切断では一側上肢切断が最も多い。
4. 上腕切断では後に脊柱側弯を生じやすい。
5. 下腿切断では後に外反膝変形を生じやすい。

48-P-084 下肢切断について正しいのはどれか。

1. 大腿標準切断では股内転拘縮を生じやすい。
2. 下腿標準切断では外反膝を生じやすい。
3. Syme切断では断端末に創を生じやすい。
4. Chopart関節離断では足内反拘縮を生じやすい。
5. Lisfranc切断では足外反変形を生じやすい。

## 整形外科学：スポーツ傷害

42-064 スポーツが原因とならないのはどれか。

1. 腰椎分離症
2. 大腿骨頭すべり症
3. 大腿骨離断性骨軟骨炎
4. オスグット病
5. 中足骨疲労骨折

43-079 反復性肩関節脱臼で誤っているのはどれか。

1. 男性に多い。
2. 前方脱臼が多い。
3. 外転外旋位で不安感がある。
4. 関節唇損傷を伴うことが多い。
5. ドロップアームサインが陽性である。

44-078 コンパートメント症候群の症状で頻度が低いのはどれか。

1. 疼痛
2. 発赤
3. 腫脹
4. 運動麻痺
5. 脈拍触知不能

45-A-87 慢性的な使い過ぎで起こるスポーツ障害はどれか。

1. 頸椎捻挫
2. 肩鎖関節脱臼
3. 上前腸骨棘剥離骨折
4. 腰椎分離症
5. アキレス腱断裂

## 整形外科学：その他

39-054 誤っているのはどれか。

1. 骨軟化症の骨組織には類骨が残存する。
2. 甲状腺機能亢進症では病的骨折が起こる。
3. クッシング症候群では骨粗鬆症が起こる。
4. 関節リウマチではパンススが形成される。
5. 変形性関節症では関節縁に骨棘が形成される。

39-083 誤っている組合せはどれか。

1. 熱傷－癬痕拘縮
2. 手掌腱膜－デュピトラン拘縮
3. 筋阻血－筋性斜頸
4. 関節リウマチ－骨性強直
5. 五十肩－関節包癒着

39-089 正しいのはどれか。

1. 先天性股関節脱臼は男児に多い。
2. ペルテス病では股関節に内転制限が起こる。
3. マルファン症候群では四肢の短縮が起こる。
4. 先天性多発性関節拘縮症は生後進行する。
5. 二分脊椎では水頭症を合併しやすい。

41-078 神経病性関節症（シャルコー関節）で誤っているのはどれか。

1. 関節痛覚低下
2. 滑膜増殖
3. 関節液貯留
4. 軟骨増生
5. 骨破壊

42-081 髄膜刺激症候で誤っているのはどれか。

1. 項部硬直
2. バレー徴候
3. ブルジンスキー徴候
4. 頭痛
5. ケルニツヒ徴候

45-A-089 熱傷で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. III度熱傷は真皮層までの損傷をいう。
2. 四肢関節部位は特殊部位と呼ばれる。
3. 癬痕形成の予防として圧迫と伸張が用いられる。
4. 手の熱傷では手内筋プラスポジションとなりやすい。
5. 小児の熱傷面積を算出する場合は9の法則を用いる。

46-A-076 急性炎症が主な病態であるのはどれか。

1. 肩関節周囲炎
2. 痛風性関節炎
3. 結核性膝関節炎
4. 肘離断性骨軟骨炎
5. 上腕骨外側上顆炎

48-P-086 熱傷について正しいのはどれか。

1. I度では皮膚の発赤をきたす。
2. 浅達性II度では肥厚性癬痕を残す。
3. III度では強い痛みがある。
4. 小児の熱傷面積の概算には9の法則が用いられる。
5. 熱傷指数はI度とII度の面積から算出する。

48-P-083 肩手症候群で正しいのはどれか。

1. 初期は疼痛を伴わない。
2. 末期に手指腫脹がみられる。
3. 初期に皮膚紅潮がみられる。
4. 慢性期の温熱療法は禁忌である。
5. 複合性局所疼痛症候群（CRPS）II型である。

49-P-086 女児に多いのはどれか。

1. Perthes病
2. 先天性内反足
3. 大腿骨頭すべり症
4. Osgood-Schlatter病
5. 発育性股関節形成不全

49-A-087 足関節靭帯損傷で最も頻度が高いのはどれか。

1. 三角靭帯
2. 踵腓靭帯
3. 前距腓靭帯
4. 後距腓靭帯
5. 前脛腓靭帯

49-A-088 膝関節血腫を生じやすいのはどれか。

1. 偽痛風
2. 血友病
3. 滑膜ヒダ障害
4. ジャンパー膝
5. 変形性膝関節症